

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ

☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項

☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること)

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ

☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項

☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること)

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲 4-10	有
	請求の範囲 1-3	無
進歩性(IS)	請求の範囲	有
	請求の範囲 1-10	無
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲 1-10	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

- 文献1) WO 00/59516 A1  
 文献2) JP 2002-515086 A  
 文献3) WO 01/34214 A1  
 文献4) WO 99/10385 A1  
 文献5) JP 2003-518167 A

・請求の範囲1-3に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1から新規性を有さない。カルボキシメチルセルロース又はヒアルロン酸を含む、架橋されたゲルを、脊椎の外科的処置後の癒着防止の用途に用いることは、文献1に開示されている(請求項1, 3, 40-43, 実施例)。

・請求の範囲1に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献2から新規性を有さない。酸性多糖を含む架橋されたゲルを、脊椎の外科的処置後の癒着防止の用途に用いることは、文献2に開示されている。

・請求の範囲4-10に係る発明は、国際調査報告で引用された何れの文献にも開示されておらず、新規性を有するが、請求の範囲4-9に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献3又は文献4より進歩性を有しない。

文献3又は4には、脊椎・脊髄手術用の癒着防止材については記載されていないが、様々な組織の癒着を防止するという記載を考慮すれば、脊椎・脊髄手術用の癒着防止材とすることは当業者であれば容易に想到し得たものである。

・請求の範囲10に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1-4及び文献5より進歩性を有しない。文献1-4の発明において、癒着防止材の視認性を改善するために、文献5に記載(20段落)の着色という手段を適用することは、当業者にとっては自明のものである。